

第 44 号

正福寺報

平成 30 年秋彼岸号

臨濟宗 円覚寺派

住職 松原 行樹

TEL 045-811-3800

FAX 045-811-6304

shouhukuji@nifty.com

〒245-0053 横浜市戸塚区上矢部町 3 4 0

<http://shouhukuji.com/>

初心に返る

正福寺住職

松原

行樹 ぎょうじゅ

夏の高校野球が終わりました。

毎日熱戦が繰り広げられ、猛暑の中ただひたすらに白球を追いかける球児の姿に、胸が熱くなりました。

今回は百回記念大会ということ
で、多くのOBが取材を受けていま
した。その中で多かったのが、

「甲子園は初心に返れるところ」と
いうことでした。

江戸時代に活躍をした良寛さん。

この良寛さんがあるとき、お茶会
に出席しました。お茶会の最中、良
寛さんは鼻がムズムズして、鼻をほ
じりました。

すると大きな鼻クソが取れたの
です。良寛さんは、着物のたもとに
ちり紙が入っているだろうと思っ

て探しますが、ありません。

そこで良寛さんは、隣の女性の着
物に付けようとしたのです。そんな
良寛さんの一部始終を見ていた女
性は、当然のようによけました。

良寛さんは仕方なく、その鼻クソ
を元に戻したら、くしゃみをして、
鼻クソも取れて、スツキリしました。

ただの笑い話ではありません。

鼻クソを煩惱と例えたら、「自分
の煩惱を人になすりつけない」とな
るし、「困ったとき、元に戻す（返
す）と解決する」と解釈できます。
思い通りにならない毎日の生活
をただ嘆くのではなくて、球児のよ
うに初心に返って、目の前のことを
ただひたすらに努め励めば、「やり
きった」と言えるスツキリ感がある
のではないでしょうか。